

クサムスビ

EXTRA
ISSUE



住職継承記念打敷披露

十月十七、十八日、当寺報恩講に於いて、この度完成致しました住職継承記念打敷、並びに水引が披露されました。

一昨年住職継承の砌には、多くの方々のご高配を賜り殊に有り難く、改めてお礼申し上げます。お陰さまをもちまして、住職就任記念打敷^{※1}並びに水引^{※2}が約半年の製作期間を経て、この度完成しましたことをご報告申し上げます。

京都西陣織で綺羅びやかに織り込まれたその図柄は、彩雲・二匹金龍（打敷）、観世流水・散華模様（水引）。また上卓には寺紋である剣花菱があらわれています。

▽打敷「龍」を念う

記念の品を打敷としたものの、図柄や彩色等思いもよらぬところで悩んだものです。最終的には山号（龍向山）にあわせ龍に……。

龍といえば禅寺等の天井画によく見るもので、名だたる画伯の迫力ある筆の跡を連想させられます。鋭く強い爪、八方睨みの我等をいすくめるような眼、それだけでも恐ろしく近寄りがたく感じられるものです。しかし朝夕迷い惑いぬる我らを優しく包み込む鐘の音、毎日観ている梵鐘の釣り手にも龍頭^{りゅうづ}があらわ



われてあるのです。

人間のせつない欲求から生じた万物の頂点にある超能力を持つ動物が龍なのでありましょう。其れにあやかろうとするのも至極当然なことといえます。調べてみれば当寺に何枚かの打敷にはデザインは違えども龍が用いられておりました。また他所にて龍を全面に配した七条袈裟着用の導師もいらしたところなど思い出しております。今まで特に龍を意識することなどなかった私にしてみれば随分と龍には縁あったことに一種の驚きを感じております。

はからずも龍の打敷を新調するとなつてみれば自分なりの意義付けが必要かと雑な想いがよぎると

ことです。前卓の図柄は、力ある龍にとつ掴まれ、揺るぎ無く導かれ行くこと。惑い続ける私達にとつて、かけがえのない一如の世界がことに必要なものであります。

この大事な法が超能力を有す二匹をもの龍によつて守護され、何人も惑う必要のなきことを示しているといえます。これは私達の心の弱さを見透かされ、人類にとつて尤も大切なものでありながら易く崩れ行くもののお心配りの現れなのであります。

加えて上卓には浄光寺の紋が処の必要性を明示し、私達具縛の凡愚にこそ咲く蓮台には阿弥陀仏が常に微笑みをもつて我らの闇に添い立ち続けたもうてあるのです。ここに私達が阿弥陀仏に南無する一つの図式が出来上がっているようです。

これは善導さまの分け隔てなく我等を掴んで離さないと言われる「無縁能摂物」のいわれを聞かしていただければいたたく程龍の爪が怖いものより大きな慈しみある、温かみのあるものに映り、有難くもなるのです。

また卯辰山に向かつての龍向山。京の東山に對しての對龍台などと比しても風流でいらしたご先祖に謝するところ大であります。

※1本堂内陣や仏壇の卓にはさむ逆三角形の敷物。
※2卓の脚部に巻く囲い。ここでは前卓打敷下の京紫色の処。



ご本山参拝日帰りバス旅行 11月28日

～報恩講結願日中参拝と涉成園散策～

宗

祖親鸞聖人の祥月命日である11月28日、東本願寺では報恩講結願日中が勤まります。「一度ご本山の報恩講さんにお参りしたい」と

いう皆さんの声に背中を押していたきながら、午前3時45分、暗闇の中バスは38名を乗せ一路京都へ。

8時過ぎ、時間通りに本願寺前で下車。修復工事中の山門をくぐり抜けて、御影堂前で記念撮影。続いて本堂の中に入ると既に多くの参拝者が。親鸞聖人に遇う為に全国から多くの方が足を運ばれたようで、じき満堂となりました。大分後ろになりましたが、御真影の正面に着座させていただくことができました。

まず、本多弘之先生の祖徳讃嘆（ご法話）を拝聴させていただきました。御真影に向き合いつつ、我が身と向き合う貴重な時間をいただくことができました。

続いて雅楽の音色とともに厳肅な雰囲気の中、結願日中のお勤めのはじまりです。いよいよ皆さんお待ちかねの坂東曲が勤まります。前後左右に体をダイナミックに揺り動かし、全身から振り絞られる迫力ある

その声と動きに皆さん身を乗り出し興味津々。

坂 東曲は、一節によると聖人が越後に流罪になられた際、舟に揺られながら念仏された姿を表現していると言われておりますように、親鸞聖人のご苦勞を思い出さずにはおれません。それこそ命がけで私たちに伝えようとご苦勞されたお念仏の教え。それを私たちは本当にいただいているといえるのでしょうか。また私たちは何を喜びとし何を悲しみとして生きているのでしょうか。頭が下がる思いで参拝させてい



満堂の御影堂

いただきました。

法要後、本願寺を後にし、歩くこと5分。あつと言う間に東本願寺の別邸、渉成園（枳殻邸）に到着。池を臨むように隣り合わせの二部屋（臨池亭と滴翠軒）に分かれて昼食をいただきました。紅葉真っ盛りのお庭を背景に京都の老舗料亭の確かな味に舌鼓を打つプチ贅沢な一時を過ごさせていただきました。昼食後は庭園を散歩したり、買い物をしたかと思いきやの時間を過ごした後、帰路に着きました。

どうしてもその派手なパフォーマンス



色づく渉成園

ンスに注目が集まり、見物で終わってしまいがちな坂東曲ですが、そこに何が表現され、何を私たちに伝えようとしてくださっているのか聞き取っていくことが大切なことなのでしょう。

遇い難くして遇うことのできた今回の貴重なご縁に深く感謝いたします。ご参加ありがとうございました。

参加者の声

「ご本山報恩講参拝に参加して」

松島 悦子

ご本山の報恩講にはじめて参加させていただきました。

当日は結願日中で始めに親鸞聖人の恩徳を讃嘆し、その教えをいただきました坂東曲が行われ、上半身を激しく前後左右に大きく振りながら念仏を称えられ、体全体で打ち込む姿に只々聞きとるのに一生懸命でした。

御影堂に上がらせていただいた折は大勢の参拝の方々に圧倒されました。身は寒さもありましたが、いつの間にか寒さも感じなくなり、長時間でしたのが初めての経験にて貴重な場に座らせ

ていただいた事に感謝です。

参拝を終え外へ出た時は、さわやかな風に送られご本山を後にしました。

昼食は渉成園でいただき、その後庭園も散策させて頂き、紅葉のあまりのみごとさについてい立ち止まり又、木々の間にやさしいピンクの椿に引き込まれ、しばし時間を忘れ庭園のすばらしさに浸らせていただきました。天候のすばらしさ、皆様のあたたかい雰囲気の中、感謝し乍ら帰路に着きました。

晩秋の京都、至福の一日でした。



渉成園内の昼食会場（滴翠軒）

第二回

「浄光寺写真展」

十月十四～十九日

すべてがシャッターチャンス
 どの花みてもきれいだな♪

昨年に引き続き、今年も報恩講期間中に合わせて「浄光寺写真展」が本堂地下礼拝堂にて開催されました。

参加者は、浅森久雄、大竹春夫、開田隆人、坂本茂吉、高田進・汪子、竹



内昭平、田中一雄、野関哲也・悟・映実子・松島晋、山本和之、吉田貞介（五十音順・敬称略）と住職の十五名。花、風景、人物などジャンルを問わない作品三十六点が集まりました。

今年のテーマは「すべてがシャッターチャンス。どの花みてもきれいだな♪」。もう二度と戻ってくるのではないかけがえのない一瞬を、参加者一人ひとりの色で会場を彩ってくださいました。

今回写真展にも参加してくださった

吉田貞介さん
 （金沢大学名誉教授・金沢学院大学名誉教授）
 に作品をご寄進いただきました。

吉田さんは今回の写真展でも全天候撮影（三六〇度撮影）された鈴木大拙館を出展されるなど前衛的な作品を制作されて



左「祈りの心」・右「祈りの場」 吉田貞介

おられます。

今回ご寄進いただいた作品は、「祈りの場・Monument」と「祈りの心・Invocation」（日本写真芸術学会誌〈創作編〉掲載作品）の二点で共にコンピュータを駆使した宗教的作品。これらの作品は、地下礼拝堂に常設展示しております。是非ともお立ち寄りください。

また同じく写真展に参加してくださった坂本茂吉さんが後日、黄金に色づく境内の銀杏を撮影してくださいました。本堂に展示しておりますので、併せてご覧下さい。



「境内の睡蓮」松島晋さんが設置して下さいました。メダカも気持ちよさそうに泳いでいます♪

きこまいけ

毎月二十八日・午後二時
 十二月～二月・冬休み

みんなで『正信偈』のお勤めの練習とお勉強をしています。一緒に『正信偈』に学んでみませんか。途中参加、初心者の方も大歓迎です。どうぞお気軽にお越しください。三月より再開します。

○テキスト『赤本』・『書いて学ぶ親鸞のことば 正信偈』



年中行事

盂蘭盆会

七月十三～十六日

毎年お盆には、老若男女、遠方近方問わず多くの方々がお墓参りに訪れます。言うまでもなくお墓参りをするということは、ご先祖様に会うということです。ご先祖様に会うということは、南無阿弥陀仏に会うということです。さらに南無阿弥陀仏に会うということは、自分自身に会うことでもあります。

しかし、金沢のお盆の風物詩ともいえるキリコが、従来のキリコから板状の略式のもの主流になりつつある現状に象徴されるように、お墓

蘭盆会

灯る明かりは
闇夜を照らす
道標

7月の掲示板



参りというもの本来の意義を失い形骸化しているように感じられてなりません。そんなことを想いながら七月の掲示を書かせていただきました。わずかながらですが闇夜に浮かびあがるキリコの南無阿弥陀仏にお盆の意義を考えさせられる盂蘭盆会となりました。

私たちがキリコの灯りを消したとしても、仏様、そしてご先祖様はいつも私たちを照らしてくださっていることだけは忘れてはなりません。

追弔会

八月十三日

八月十三日、旧盆に合わせて「追弔会」が執り行われました。読経前の登高座では、参詣者のご先祖様の法名がお一人お一人読み上げられ、



亡き人に思いを馳せつつ、ご先祖様が結んでくださった仏縁を確かめました。

ご法話は、昨年に引き続きよしかわで靈河秀樹（福井県・浄土真宗本願寺派玄性寺住職）さん。おなじみの法話ライブ形式で、間にご法話を挟みつつ仏教讃歌やJPOPなど11曲を披露してくださいました。その美しい音色とやさしい歌声であたたかい雰囲気包み込まれた本堂。見事に仏様の世界を表現してくださいました。参詣者の皆さんは、大切な人を亡くした悲しみの中から、師が届け

てくださる仏様からのメッセージに耳を傾けました。

尚、当日の様子を動画投稿サイトYouTubeでご視聴いただけます。

一年中行事

- 一月「修正会」元旦（午前0時）
- 三月「お太子さん」彼岸中日（午後一時）
- 七月「盂蘭盆」十三日～十六日
- 八月「追弔会」十三日（午前十時）
- 十月「報恩講」十七日（午後一時半・七時）十八日（午前十時半）
- 十二月「除夜の鐘」大晦日（午後十一時半）※毎月二十八日「きこまいけ」（午後二時）

喜び悲しみ

すべてを包む

六字のハーモニー

8月の掲示板

おみがき

十月十一日

十月十一日、「ほんこさん」をお迎えする為の大切な準備「おみがき」（仏具磨き）が行われました。お子様からベテランの方まで初参加の方を含め多くの方々に協力をいただきまして、おかげさまで仏具本来の輝きを取り戻すことができました。

仏具を磨かせていただきながら、仏具の汚れ（私たちの心の垢）と向き合

報恩講



十月十七・十八日

十月十七・十八日、「報恩講」が執行されました。両日共「お勤め」・「法話」・「お斎」（食事）の流れで進められ、ご法話には今年も相馬豊師（白山市・



道因寺住職）のご縁をいただくことができました。今回のご法話も当寺法話録『結草』No.17（12月1日発行）に

い、そんな私たちをどこまでも照らし出してくださる仏様のおはたらきを確認させていただきました。

おみがき後のおはきは格別です！



掲載させていただいておりますので、併せてご覧ください。

十七日の夜はプロジェクターでDVD『金子みすゞ慈しみの詩』を上映。続いて住職が、童謡詩人である金子みすゞさんが残された詩を通して、そこに表現されている仏様の世界についてお話ししました。

10月の掲示板

忘れていても

忘れられていない

うれしはずかしの

報恩講



ご存知ですか？
実は親鸞聖人は小豆が大好物だったからです。各地に小豆を用いた様々な報恩講料理が伝わっていますよ。

豆知識



当寺のお斎には、ご門徒さんにお手伝いいただいて手作りのお弁当が振る舞われます。そこにはいつもお赤飯や金時豆の甘煮が入れられています。なぜか

無常の風は

冷たいけれども

その厳しさから

仏のぬくもりを

知る

12月の掲示板

平成27年回忌表

一周忌	・	平成26年（2014年）
三回忌	・	平成25年（2013年）
七回忌	・	平成21年（2009年）
十三回忌	・	平成15年（2003年）
十七回忌	・	平成11年（1999年）
二十回忌	・	平成8年（1996年）
二十五回忌	・	平成3年（1991年）
三十回忌	・	昭和58年（1983年）
三十七回忌	・	平成54年（1979年）
五十回忌	・	昭和41年（1966年）

※（）内の年忌法要を勤める場合があります。
法事のご依頼はお早めに。

行事のご案内

「お太子さん」

三月二十一日

午後一時ヨリ

鈴木大拙館館長

法話 木村宣彰先生

お誘い合わせご参詣下さい。